

柚木の

かつびを治す

八木久成

平成二年五月五日号

柚木の蓮盛寺れんじょうじには備中びっちゅう(岡山県)の武士のお墓があります。今回は、この武士に関するお話を、前回に引き続き柚木の福島清二せいじさんに伺いました。

柚木で倒れた武士

江戸時代の終わりごろ、嘉永三年かえいのことで

す。
備中松山藩の八木久成という武士が、江戸から国元へ帰る途中、柚木まで来ると病に伏

せてしまいました。やむなく、柚木の吉沢さんという篤農家とくに身を寄せてもらい、病気を治すことにしました。

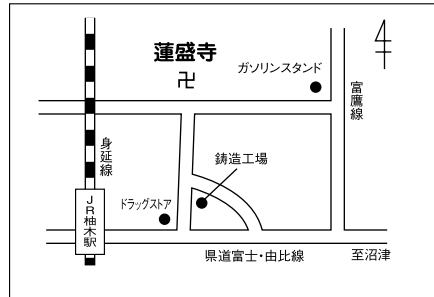
しかし、「国元へ早く帰りたい」という気持ちとは逆に、病は重くなるばかりで、とうとう息を引き取ってしまいました。

人々は近くの蓮盛寺にお墓を建て、ねんごろに葬りました。

おちよこにお茶を

ところが、時が過ぎると、お墓は無縁仏として忘れ去られてしまいました。

ある日のこと、柚木の福島きんさんという



▶ 八木久成の墓（平成十四年二月撮影）



信心深いおばあさんが夢を見ました。夢には武士があらわれ、「私は八木久成です。ここで、かつて皆さんのお世話になりましたが、このごろは祭ってくれる人がいません。かっけに困っている人なら治しますので、どうぞ、祭ってください。そして治ったら、おちよこにお茶を入れて置いてください」と言いました。

おばあさんは、早速お墓を掃除し、お茶を上げました。そして、周りの人にこの話を伝えました。

人知れず祭られる

福島きんさんは、福島清二さんのおばあさんです。今では、おちよこを上げる人は少なくなりましたが、人知れずおさい銭や花を上げる人がおり、人々の信仰を集めています。

語ってくれた方

福島清二さん